

1月のはじめに、プエルトリコで開催されたアメリカ南部政治学会(Southern Political Science Association)の年次大会に出席し、報告をしました。アメリカには全国規模の学会の他に地区別学会(Midwest, South, West)があり、それぞれ活発に活動しています。

プエルトリコはアメリカ合衆国の一部ですが、連邦法の適用を受ける保護領として位置づけられ、自治政府があるものの州ではありません。住民はアメリカ市民としての地位を認められてはいるものの、大統領選挙には参加できず、連邦議会の議席もないという地域です。アメリカ国内ではグアムなどが同様の法的地位(Commonwealth とよばれる)になります。このようにプエルトリコはアメリカの一部ですが、場所はカリブ海に位置し、アメリカ本土からだとメキシコやキューバ、ドミニカといった他国よりも遠い場所です。シアトルからプエルトリコの首都サンファンまで飛行機で移動する時間は8時間半ですが、成田からシアトルまでが9時間5分なので、相当遠いです。



写真は学会の会場となったホテルで、スペイン植民地時代の砲台跡が敷地の中にありました。右側の写真はホテル入り口に設置された学会の受付場所です。気候は日本の6月と似ていましたが、雨は降りませんでした。



報告を行ったのは日本政治についてのパネルで、日本の利益団体の選挙活動について報告しました。自分の時間が10分と短かったためと、初めての海外発表ということ等々で、いろいろと不満が残る内容でした。今回は発表でしゃべる内容の原稿を作成して、大半はそれを読み上げるというやり方をしました。海外での学会報告の機会は今後もある

と思うので、日本語での発表と同様にスライドを見て話すようになり、原稿を読み上げずにすむようになることを目指したいと思います。